

令和４年度奥州市病院事業会計決算書

【財務三表解説書】

奥州市病院事業会計決算の内容は、市の広報誌や医療局ホームページでお知らせしていますが、病院事業会計は民間の企業と同じように『複式簿記』を使って会計処理を行っているため、決算の内容は『損益計算書』や『貸借対照表』などの財務諸表を用いて表されます。これは、市の一般会計や特別会計のようにお金の出入り（歳入、歳出）のみを示したもの（『単式簿記』）と異なり、複式簿記を見慣れない方にとっては少し難しい内容となっています。

そこで、少しでもその内容をご理解いただくために令和４年度決算の平易な解説書を作成しました。この解説書は、『損益計算書』『貸借対照表』『キャッシュ・フロー計算書』の財務三表を中心に、決算の内容をなるべくわかりやすい言葉で説明したものとなっていますので、病院事業会計決算書とともにご覧いただければ幸いです（※）。

※ 本書は、わかりやすく説明するため一部決算書の表現と異なる箇所があります。

奥州市病院事業会計決算の概要

1. 業務量

(税抜、単位：人、円、%)

			R 4	R 3	増減(R4-R3)
患者数	入院	年間(人)	27,909	30,799	△ 2,890
		1 日平均(人)	76.5	84.4	△ 7.9
		1 日平均単価(円)	40,151	32,229	7,922
	外来	年間(人)	120,970	121,634	△ 664
		1 日平均(人)	499.9	504.7	△ 4.8
		1 日平均単価(円)	10,702	9,425	1,277
	病床利用率(%)		36.1	39.8	△ 3.7

※入院診療日数は365日、外来診療日数はR4が242日、R3が241日です。

※病床利用率は、感染症病床(総合水沢病院4床)を除く、一般病床の利用率を記載しています。

2. 収益的収支の状況

(税抜、単位：千円)

		R 4	R 3	増減(R4-R3)
収入	医業収益(A)	2,738,844	2,541,028	197,816
	うち入院収益	1,120,562	992,625	127,937
	うち外来収益	1,232,274	1,080,815	151,459
	医業外収益(B)	2,302,052	2,407,190	△ 105,138
	訪問看護事業収益(C)	62,373	65,561	△ 3,188
	訪問看護事業外収益(D)	17	13	4
	特別利益(E)	833	191	642
	収入計(F)	5,104,119	5,013,983	90,136
支出	医業費用(G)	3,982,767	4,108,976	△ 126,209
	うち給与費(退職給付費除く)	2,287,872	2,298,413	△ 10,541
	うち材料費	431,171	399,175	31,996
	うち減価償却費	214,969	228,454	△ 13,485
	医業外費用(H)	158,217	147,315	10,902
	訪問看護事業費用(I)	75,073	77,041	△ 1,968
	うち給与費(退職給付費除く)	70,252	67,153	3,099
	特別損失(J)	2,947	12,481	△ 9,534
	支出計(K)	4,219,004	4,345,813	△ 126,809
	医業損益(A-G)	△ 1,243,923	△ 1,567,948	324,025
経常損益(A+B+C+D)-(G+H+I)		887,229	680,460	206,769
純損益(F-K)		885,115	668,170	216,945

※医業収益、医業費用、訪問看護事業費用の内訳は、それぞれ主なものを抜粋して記載しています。

※千円単位で金額を記載しているため、合計額が合うように端数を調整している箇所があります。

※収益的収支 病院事業の1年間の経営活動によって生じる収支

3. 資本的収支の状況

(税込、単位：千円)

		R 4	R 3	増減(R4-R3)
収入	企業債	0	1,600	△ 1,600
	出資金	178,665	153,020	25,645
	補助金	43,085	2,512	40,573
	収入計	221,750	157,132	64,618
支出	建設改良費	140,219	49,712	90,507
	企業債償還金	154,584	151,338	3,246
	投資	25,200	28,800	△ 3,600
	支出計	320,003	229,850	90,153

※資本的収支 施設の整備や医療機器の購入(建設改良)、医師養成奨学金の貸付(投資)などにかかる収支

※資本的支出に対して資本的収入が不足している額は、過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

令和4年度の収益的収支の状況は約8億8,500万円の純利益で、前年度に引き続き黒字決算となりました。新型コロナウイルス感染症関連の国や県からの補助金により、医業外収益が多額となったことがその大きな要因となっています。

患者数は入院・外来とも減少しましたが、一人当たりの診療単価が上がったため、医業収益はやや増加しました。しかし医業損益では赤字が続いているため、医業部門で利益を出せるよう、経営改善に努めていく必要があります。

資本的収支の状況では、補助金を活用した医療機器等の更新を行ったため、収入、支出とも前年度より増加しました。

令和4年度 奥州市病院事業損益計算書（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

損益計算書とは...

損益計算書は、1年間の収入(収益)と支出(費用)からどれだけの利益(または損失)が生じたのかを示した「経営成績表」です。この計算書から病院事業経営が黒字なのか赤字なのかわかります。収入、支出とも大まかな項目に分かれていて、収支の偏りがわかるため、経営分析を行い、次年度以降の方針を立てることができます。

病院事業の本業である医業部門の収入と支出の額を表しています。

医業収益には診療行為で得た収入のほか、健康診断やワクチン接種で得た収入、市の一般会計からの医業に対する負担金(繰出金)も計上されます。

医業収益①から医業費用②を引いたものが医業損失③です。

令和4年度は医業費用が医業収益を上回ったため、**約12億4,400万円の赤字(医業損失)**となりました。病院事業は医業部門で黒字(医業利益)が出せるよう企業努力をしていく必要があります。

本業以外の収入と支出の額を表しています。

この部門の主な収入は、国県補助金や市の一般会計からの負担金(繰出金)です。

主な支出は企業債の利息です。雑損失は消費税の申告納税額の計算過程で生じるもので、現金支出は伴いませんが、損失として計上されます。

訪問看護事業の収支を明らかにするため、本業である医業部門から独立して表しています。

訪問看護事業収益④から訪問看護事業費用⑤を引いたものが訪問看護事業損失⑥です。支出が収入を上回っているため、約1,300万円の赤字となりました。

各収益から各費用を引いたものが**経常損失⑦**です。1年間の病院事業運営の結果、黒字であれば経常利益、赤字であれば経常損失となります。

令和4年度は収入が支出を上回り、**約8億8,700万円の黒字(経常利益)**となりました。黒字の要因として、新型コロナウイルス感染症対策に要した経費に対し、多額の国県補助金が交付されたことが挙げられます。

決算対象年度以前の取引によるものや、通常の事業運営によらない臨時的な収入と支出は、それぞれ特別利益、特別損失として別に表します。

主なものは診療報酬の査定によって生じた損益や固定資産の売却損益、災害によって生じた損失などです。

経常損失⑦に特別損失⑧を加えたものが当年度の純損失⑨で、1年間の事業運営の最終成績となります。

令和4年度は最終的に**約8億8,500万円の黒字(純利益)**となりました。これを前年度からの繰越欠損金⑩に加えると、当年度で**未処理欠損金(いわゆる累積赤字)⑪は約12億4,500万円に減少**しました。

1 医 業 収 益	
(1) 入院収益	1,120,562,569
(2) 外来収益	1,232,272,870
(3) その他医業収益	365,462,546
(4) 本部費配賦額	20,545,572
計	2,738,843,557 ①

2 医 業 費 用	
(1) 給与費用	2,296,941,770
(2) 材料費	431,170,634
(3) 経費	1,003,028,073
(4) 減価償却費	214,969,165
(5) 資産減耗費	8,358,700
(6) 研究研修費	7,752,893
(7) 本部費配賦額	20,545,572
計	3,982,766,807 ②

医 業 損 失 1,243,923,250 ③

3 医 業 外 収 益	
(1) 受取利息及び配当金	953,835
(2) 補助金	1,121,374,540
(3) 一般会計負担金(繰出金)	1,133,001,000
(4) 患者外給食収益	276,000
(5) 長期前受金戻入	19,514,765
(6) その他医業外収益	26,931,421
計	2,302,051,561

4 医 業 外 費 用	
(1) 企業債利息	19,027,058
(2) 患者外給食材料費	0
(3) 雑損失	139,189,950
計	158,217,008

2,143,834,553

5 訪 問 看 護 事 業 収 益	
(1) 外来収益	62,373,092
(2) その他医業外収益	0
計	62,373,092 ④

6 訪 問 看 護 事 業 費 用	
(1) 給与費用	70,597,082
(2) 材料費	0
(3) 経費	4,399,822
(4) 減価償却費	0
(5) 研究研修費	76,384
計	75,073,288 ⑤

△ 12,700,196 ⑥

7 訪 問 看 護 事 業 外 収 益	
(1) 補助金	0
(2) その他医業外収益	17,663
計	17,663

8 訪 問 看 護 事 業 外 費 用	
計	0

17,663

経 常 利 益 887,228,770 ⑦

9 特 別 利 益	
(1) 固定資産売却益	0
(2) 過年度損益修正益	833,334
(3) その他特別利益	0
計	833,334

10 特 別 損 失	
(1) 固定資産売却損	0
(2) 過年度損益修正損	1,700,030
(3) その他特別損失	1,247,031
計	2,947,061

△ 2,113,727 ⑧

当 年 度 純 利 益 885,115,043 ⑨

前年度繰越欠損金 2,130,610,741 ⑩

当年度未処理欠損金 1,245,495,698 ⑪

令和4年度 奥州市病院事業会計貸借対照表（令和5年3月31日）

貸借対照表とは...

貸借対照表は、決算年度末時点において所有するすべての資産、負債及び資本の残高（価値）を表す報告書です。
 どういう資産（負債）をどのような形で持っているかがわかるため、企業の「健康診断書」のような役割を果たします。
 資産合計と負債資本の合計額が必ず一致し、左右のバランスが均衡しているため『バランスシート』ともいいます。

（単位：円）

資産のうち1年以内に現金化できるものを流動資産に、できないものを固定資産に計上します。
 固定資産のうち投資は、医師養成奨学資金としてこれまで貸付を行った総額です。

貸借対照表から読み取れる 奥州市病院事業会計の主な指標

・流動比率

流動資産／流動負債×100

=639.3% **余力あり😊**

支払い能力があるかどうかを判断する指標。200%以上が望ましいとされています。

・現金預金比率

現金預金／流動負債×100

=460.5% **余力あり😊**

流動負債に対する現金預金の割合。20%以上が望ましいとされています。

・有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却累計額／
 有形固定資産のうち償却対象資産×
 100=74.4% **老朽化進行中😓**
 有形固定資産の減価償却の進行具合を表します。比率が高いほど老朽化度合いが高いといえます。

固定資産	3,768,889,250	固定負債	759,026,590
有形固定資産	3,688,586,776	企業債	523,230,638
土地	825,805,793	リース債務	235,795,952
建物	9,030,918,145	流動負債	606,634,278
構築物	384,601,877	企業債	157,271,933
器械備品	1,446,420,738	リース債務	49,265,016
車両	22,984,928	未払金	236,646,329
リース資産	287,200,000	引当金	161,451,000
減価償却累計額 △	8,309,344,705	その他流動負債	2,000,000
無形固定資産	1,102,474	繰延収益	174,013,186
電話加入権	1,102,474	長期前受金	174,013,186
投資	79,200,000	負債合計	1,539,674,054
長期貸付金	79,200,000		
流動資産	3,878,165,550	資本金	7,022,698,169
現金	2,793,571,257	剰余金	△ 915,317,423
未収金	1,055,423,200	資本剰余金	202,500,445
貯蔵品	27,171,093	利益剰余金 △	1,117,817,868
その他流動資産	2,000,000	資本合計	6,107,380,746
資産合計	7,647,054,800	負債資本合計	7,647,054,800

固定負債と流動負債は他者へ返済（支払い）を行わなければならないもので、支払い期限が一年以内であるものは流動負債に、支払い期限が1年を超えるものは固定負債に計上されます。

繰延収益は、医療機器の購入や施設整備の際に交付を受けた国県補助金などです。

資本には、資本金やこれまでの営業活動で獲得した利益、積立金などが計上されます。
 奥州市病院事業会計には繰越欠損金があるため、利益剰余金の額はマイナスで表示されています。

資産合計
 持っている資産の状態を表しています。

負債資本合計
 資産をどのように獲得したのかを表しています。

令和4年度奥州市病院事業会計キャッシュ・フロー計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

キャッシュ・フロー計算書とは...

キャッシュ・フロー計算書は、**1年間の現金の増減を表す報告書**です。

貸借対照表では年度末時点での現金の残高はわかりますが、この計算書によってどのような活動(理由)で増減したかを知ることができます。

受取利息は預貯金利息で、支払利息は借金(企業債)の利息や支払ったリース料の利息相当額のことです。

令和4年度は、投資活動で現金が減少したものの、業務活動と財務活動で現金が増加したため、トータルで**約6億5,300万円現金が増加し、**年度末時点の**現金残高は27億9,357万1,257円**となりました。

(単位:円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純損益	885,115,043
減価償却費	214,969,165
長期前受金戻入額	△ 19,514,765
受取利息	△ 953,835
支払利息	19,027,058
固定資産除却損	7,786,668
未収金の増減額(△は増加)	△ 334,301,295
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 2,394,268
未払金の増減額(△は減少)	△ 14,544,515
引当金の増減額(△は減少)	△ 1,747,000
小計	756,936,256
利息の受取額	953,835
利息の支払額	△ 19,027,058
計	738,863,033
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
固定資産の取得による支出	△ 125,332,720
固定資産の売却による収入	0
固定資産取得に係る国庫補助金等による収入	43,085,000
貸付による支出	△ 25,200,000
計	△ 107,447,720
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債発行による収入	0
企業債償還による支出	△ 154,584,254
リース資産債務の返済による支出	△ 2,139,032
追加出資による収入	178,665,000
計	21,941,714
IV 資金増加額	653,357,027
V 資金期首残高	2,140,214,230
VI 資金期末残高	2,793,571,257

当年度純損益は損益計算書の純利益の額と同じ!

「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、病院事業の営業活動によってどのくらい資金(現金)を稼ぐことができたかを表します。
令和4年度は**約7億3,900万円現金が増加**しました。

通常「投資活動によるキャッシュ・フロー」と「財務活動によるキャッシュ・フロー」では現金が減少しますので、「業務活動によって現金を増加させなければ現金は減る」ということになります。

未収金、たな卸資産、未払金、引当金は前年度末時点のそれぞれの金額(残高)と比較して増減した額を表します。これらの年度末時点の残高は、貸借対照表に示されています。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、医療機器の購入や建物の増改築などの建設改良、医師養成奨学金の貸付といった投資活動にどのくらい資金(現金)を使ったかを表します。

令和4年度は**約1億700万円現金が減少**しました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、企業債の借入と返済の額、支払ったリース料の元本相当額がどれくらいであったか、また一般会計からの出資金がいくらであったかを表します。

令和4年度は**約2,200万円現金が増加**しました。

奥州市病院事業経営指標の推移

経営指標とは…決算書の数値を用いて企業の経営状況を表した指標のことで、いくつかの指標を掛け合わせて分析をしたり、経年比較や類似他団体との比較によって、経営の現状を客観的に把握することができます。奥州市病院事業の事業報告書では、以下の3つの指標を掲載していますので、それぞれ解説していきます。

1. 経常収支比率【(経常収益／経常費用) × 100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
病院事業全体	121.0%	115.7%	90.5%	91.0%	96.4%
総合水沢病院	134.6%	129.8%	88.3%	88.3%	96.2%
まごころ病院	97.6%	92.7%	91.7%	93.6%	93.5%
前沢診療所	110.6%	102.0%	94.2%	103.5%	101.7%
衣川診療所	100.7%	95.3%	97.3%	94.3%	100.1%
衣川歯科診療所	120.7%	95.1%	102.5%	99.6%	108.3%

経常収支比率は、経常費用（医業費用＋医業外費用＋訪問看護事業費用）に対する経常収益（医業収益＋医業外収益＋訪問看護事業収益）の割合を示す指標で、**通常の病院活動による収益状況を表しており、100%以上であれば単年度黒字、100%未満であれば赤字の状態**となります。病院事業全体では2年連続で100%以上となっていますが、これは新型コロナウイルス感染症関連の補助金の交付によるところが大きいいため、補助金の交付がなくても100%以上を維持できるよう、経営改善に向けた取り組みが必要となります。

2. 修正医業収支比率【(医業収益－他会計負担金)／(医業費用) × 100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
病院事業全体	63.4%	56.9%	54.4%	61.8%	68.1%
総合水沢病院	65.3%	56.3%	52.1%	62.9%	72.3%
まごころ病院	70.3%	68.8%	68.8%	72.6%	73.7%
前沢診療所	38.5%	33.4%	30.4%	29.2%	27.1%
衣川診療所	47.8%	47.8%	48.4%	50.4%	55.6%
衣川歯科診療所	54.3%	49.5%	51.7%	52.2%	55.8%

修正医業収支比率は、医業費用に対する修正医業収益（医業収益－他会計負担金）の割合を示す指標で、**本業である医業活動で生じる医業費用が、医業収益（市の一般会計からの医業に対する負担金を除く）でどの程度賄えているか**を表しています。前年度と比較して上回っているものの、いずれの病院・診療所においても比率が低く、本業である医業活動では利益を上げられていない状況が続いています。

3. 病床利用率【(年延入院患者数／年延病床数) × 100】

	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
病院事業全体	36.1%	39.8%	41.3%	53.0%	68.7%
総合水沢病院	27.7%	33.0%	35.9%	50.5%	69.8%
まごころ病院	67.4%	66.6%	64.7%	71.0%	80.4%
前沢診療所	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)
衣川診療所	20.6%	24.3%	22.8%	27.3%	31.0%

病床利用率は、年延病床数（許可病床数×入院診療日数）に対する年延入院患者数（毎日24時現在の入院患者数に当日の退院患者数を加えたもの）の割合を示し、**病院の施設が有効に活用できているかを判断する指標**です。とくに水沢病院は医師不足による休床等の影響で下降傾向にあり、病床維持のための職員配置によって生じる経費に見合う収入が得られていません。

用語解説

本部費配賦額

診療行為を行わない管理部門（経営管理部）の収支を均衡させるため、各病院・診療所が負担する経費のこと。各病院・診療所側は費用として経営管理部へ支出し、経営管理部は同額を収入するもの。

減価償却費

医療機器や建物などの固定資産は使用期間が長期間に渡るため、法律によって定められた使用年数（耐用年数）で割って1年毎の金額を計算し、毎年費用として計上するもの。

資産減耗費

病院が持っている固定資産が劣化などにより使用できなくなり廃棄する場合に、減価償却が終わっていない部分を資産から除くための費用（固定資産除却費）と、薬品などの貯蔵品が破損などにより使用できなくなった場合に、帳簿から除く際の費用（たな卸し資産減耗費）のこと。

長期前受金戻入

医療機器や建物などの固定資産を国県補助金などを活用して整備した場合、耐用年数で割って1年毎の金額を計算し、毎年収入として計上するもの。

減価償却費の逆バージョン（収入版）、と覚えればわかりやすい！

未収金

決算対象年度の収入として金額が確定しているが、年度末時点でまだ入金がないもの。

貯蔵品

年度末時点で未使用である薬品や診療材料などの残高のこと。

企業債

医療機器の購入等のために行った借金のこと。

医療機器は使用効果が複数年に渡るため、負担の平準化を図る効果もある。支払い期限が1年以内のものは流動負債に、1年を超えるものは固定負債に計上され、これらを合わせた金額が借金の残高となる。

未払金

決算対象年度の支出として金額が確定しているが、年度末時点でまだ支払いが完了していないもの。

引当金

将来発生する費用や損失に備えるため予め費用として準備しておく見積額。病院事業会計では主に翌年度6月に支払うボーナスのうち、決算対象年度に起因する分（12月から3月分）を計上。